

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207520		
法人名	有限会社 熊谷ケア企画		
事業所名	グループホームあぜみち		
所在地	能代市二ツ井町飛根羽立96-1		
自己評価作成日	平成23年12月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	平成23年11月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人が生まれて死ぬまでの間に介護を受ける時期はわずかである。また、認知症であっても一日の中で症状が発生するのはわずかな時間である。だから、認知症ケアを重要視するよりも、人としての当たり前の生活と、自然な形の老化現象を認めるべきであると考えている。私たちは、その人が望む生活、そしてその人なりの時間の過ごし方を大切にしている。毎日が違う時間の過ごし方となるが、本人が「これで良い」と感じるのであれば、楽しんで、ボーっとしていても、怒っていても、その人の生き方であると認識することが、尊厳を守るということに繋がるのではないかと考えている。私たちは、特別な支援をしなくても、「いつも側にいるこの人が、自分を守ってくれるんだ」と感じて頂けるような関わりを理想としている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表は県グループホーム協会会長という事で、県内のみならず全国各地のグループホームとの情報交換が行われており、法人として独自の認知症ケアについて考え方を確立しており、その方針について職員一体となって取り組まれている。ホーム内の活動についても、特に型にはまる事なく、あくまで「利用者が主役」と考え、思いや意向を尊重したケアを心がけ実践されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ理念を目につく場所に示し、申し送りや会議の場、空き時間などを利用し、多くの話し合いを行いながら、日常的な業務の中でも理念の共有と実践に努めている。	これまで2～3回の理念の見直しが行われたが、利用者と生活を共にし、避けては通れない「老い」を目の当たりにし、現在の理念の「生きる権利」を実践する理念を掲げ、日々の業務に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加、地域の行事への積極的な参加に加え、地区の盆踊りの際の敷地提供、ホーム内の行事に対しての近隣住民の参加を呼び掛けるなど、積極的に地域活動に取り組んでいる。	運動会、盆踊り、祭典などの地域行事に利用者や職員も積極的に参加し交流を深められている。また地元高校生の職場体験を受入れた事により、利用者の意外な一面を発見するなど、新たな試みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	サポーター養成講座の講師や地域内の講演で伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に際して、ホームの取り組みや利用者に向けられたサービスなどの情報を発信し、情報交換を密に行っている。得られた情報は、質の向上につなげるよう努力している。	定期的な運営推進会議が開催されているが、委員からの発言が少ないことから、ホームとしても違った視点からのアドバイスを求め、新に地域住民を委員に加えるなどの運営推進会議の活性化に努められている。	今後もホームとして、具体的に項目を絞り、それに応じた助言等が期待できる委員を選任するなど、活発な運営推進会議が開催される事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、情報交換を行い、協力体制を整えるよう努めている。	旧二ツ井町のケア会議や能代市のケアマネ連絡会など、行政主催の会議等に参加し情報交換が図られている。また生活保護の受入もされており、定期的なケースワーカーの訪問が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	職員の利用者への対応について、例えば、「立ち上がろうとした利用者を座らせる」、「外に出たい時は自由に外出させる」など、「これは、身体拘束になるのか？」と常に意識した対応を心がけられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	通常の業務の中で何が虐待に繋がるのか、結びつくのかを話し合いながら、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状で活用できる利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族とは、十分な話し合いを行うことができるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に声をかけられるような雰囲気づくりに努め、家族の意見や要望を素直に表現して頂けるような関係性の構築を行っている。	ホームとしては運営に関する家族等の意見の反映にと家族会の設置も検討されており、家族等へ相談されているが未だ設置に至っていない。そのため、たよりや面会時など日常生活の様子や情報交換を行なうなどの関係作りを心がけている。	ホームとして、家族等との関係作りの重要性を認識されており、行事への案内や病院受診の家族対応など様々な試みが行われているが、家族の仕事の都合などもあり難しい現実も理解されている。今後も家族等の関わりが途切れる事なく関係性の構築をめざした取組を今後も期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との日常的な関係の中で、意見を言えるような環境を提供し、その内容を運営に反映させている。	現場で感じた事や気づいた事は「すぐ現場で」というスタンスを基にしており、職員間で情報交換が行われており、また代表者や管理者に相談しながら随時対応をされている。	現場職員が感じているハード面の改善など、早急な対応が難しい事案でもあるが、代替案や援助方法による対応など協議するなど安全で快適なホーム運営が行われる事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員個々の特性を考慮し、労働に対してのやりがいや向上心を持ち、満足できるような環境や条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のやりがい、興味によって積極的に研修への参加の機会を与え、それぞれの多様な知識や実力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県GH協議会、能代山本GH協会の会員であると共に、白神認知症研究会にも属し、勉強会やネットワーク作りを通じて、事業所全体の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問を通じて、本人の想いに耳を傾け、本人の安心に繋がる関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声に対しては常に真摯に向き合いながら、信頼関係を作っていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべての利用者と職員は、共に助け合いながら生活していくものであるとの意識を持ち、関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性の中で、本人と家族の絆を保持していけるよう、協力して利用者を支えていく考えを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人からの手紙や電話などを通じて、本人の馴染みの関係性が継続していけるよう配慮している。	昔から利用している理髪店に行ったり、家の近くを散歩したり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。また一番身近な家族等の関わりも自由な面会や日常性の様子が伝わるたよりの発送など、お互いの様子が分かる手段をとられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の構築を前提とし、どの場面で職員が関わるのかを常に考慮しながら、自然な形で関係性を作り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを聞き取り、把握している。困難な場合は、本人はどのような生活を求めているのかを考慮しながら把握に努めている。	「怒る」という時は、特に何らかの訴えや思いがあると感じて、その背景を検証するようにされている。その反面、「笑う」という時は精神的にも落ち着かれていると判断するなど、利用者の表情や感情、行動などから気づくようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、又は家族から、可能な限りの情報を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の会話や申し送りなどの情報、又は日常的生活サイクルを観察し、利用者個々人の特徴や現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画ではあるが、本人と家族との話し合いの場は設けておらず、日常的な会話などを通しての意見の反映に留まっている。	これまで介護計画書の理解について、職員間での温度差が見られていた。そのため、ホームでは毎日の利用者の状態や支援内容などが計画書に反映されるよう、独自の様式を使用されている。また毎月のケース検討会で都度「介護計画書は誰のためのものか」という事を再確認しながら行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙を活用し、日々の変化を職員間で共有し、日々の業務に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続して利用し、本人にとって適切な医療の提供ができるよう支援している。	入居前のかかりつけ医との関係が途切れる事なく、可能な限り受診できるよう支援されている。そのため入居前の在宅等での状態など、沢山の情報共有が可能となっている。また身体状態が低下しても通院介助が出来るうちは、外出の一環としても極力通院できるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が不在ということで、介護職が医療との連携の中で、情報交換と連携を密に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的な医療機関との関係づくりに取り組み、入院時の情報交換も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業での限界と可能となる部分の説明を行うとともに、常に重度化や終末期への考え方を話し合っている。	重度化や終末期の対応について、具体的な決まりはないが、基本的には、かかりつけ医の判断を仰ぎ、また家族の意向やホームの受入態勢など総合的に判断したうえでの支援が行われる仕組みとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回の救急救命講習を受け、常に緊急時を想定した話し合いを持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うと共に、常に地域住民に対しての協力を仰いでいる。	今回の震災を経験し、自家発電機の設置や非常食などの準備が行われている。また、定期的に地域住民の協力を得た避難訓練が行われている。	今回の大震災を教訓に、被災地の避難所での認知症の方の対応など、被災地から、学ぶ事が多いものと思われる。今後、県のグループホーム協会など、全国・県レベルで、グループホームの役割や対応など構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的な会話の中でも、どのような言葉が本人の人格に影響するのかを常に話し合いながら、相手の立場になって考えることができるよう努めている。	利用者個々の出来る事・出来ない事など個性を把握したうえでの個別支援が行われている一方、利用者同士の集団による相乗効果による力が引き出されるような働きかけを行うなど、利用者の生活を最優先した支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表現し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	季節ごとの衣替えの際に、家族に衣類を持ってきてもらっている。その際に、本人の好みに添ったものを持参していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人からの要望に応じて食事準備を行ってもらうこともある。しかし、音や匂い、味見や会話を通してその空間を共有することで食事が楽しみなものになると考えている。	ホーム内の中央に台所があるため、利用者が常に注目できる配置となっており、「臭いや音、作業」など五感を生かした空間となっている。また嗜好については食べ残しや食事のペースなど機会を見て把握されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた食事のとり方やバランスを考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の、個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況に応じた支援を行っている。	排泄の自立が継続して図られるよう、定時の排泄誘導による排泄習慣の習得、適切な介護用具を利用することにより、離床しての排泄、オムツ使用を極力避けるよう利用者個々の排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間の指定は行っているが、本人の状況に応じて行うため、強制はしていない。状況に応じてシャワー浴や清拭で対応する場合もある。	週2回、午前中の中の入浴を基本とした入浴介助が行われているが、利用者の身体状態等に応じて曜日や時間を柔軟に変更し対応されている。また利用者の希望（同性介助など）や身体能力に応じた福祉用具の使用や複数職員の介助などにより、安全で安心した入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じた休息や安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識や理解に努め、医療関係者への情報提供や症状の変化についての確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状況に応じた役割や楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	事業所のできる範囲を説明するとともに、できる限り本人の希望に添えるよう努めている。	病院受診や買物、季節ごとの行事の一環とした外出支援はあるものの、基本的には利用者支援を第一に考え、利用者の意向を尊重した外出支援が行われている。	利用者の意向を尊重する事も大切だと思われるが、意思表示少ない方への支援や計画的な外部との交流支援を図ることにより、利用者の残存能力を引き出す機会としての外出機会の創出も期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては、自己責任の範囲内で持参している人もいれば、家族の了解を得て、紛失しても気にならないほどの金額を持っている人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場としての意識を持っていただき、常に心地よく過ごせるよう、利用者・職員共に配慮して生活している。	あえて身体機能の低下予防のためバリアフリーとせず、普通の自宅同様、ホーム内にも同様の家具が配置し、利用者の機能を生かそうという取組が行われている。またテーブルには飴玉などの食べ物も置かれ自由に食べてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	横並びや向い合せのソファがあり、常に利用者間の会話を行える環境であり、思い思いの時間を過ごせるような環境設定を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には面会の際に、居室を本人と共に工夫することが可能であることを伝えている。また、職員間の話し合いの元で、物の移動を行うこともある。	家族には馴染みの家具等の持込みを促しており、鏡台やタンス、家族写真など持ち込まれ利用者の好みに応じて配置されている。また寝具についても布団を好む利用者には、床に畳を敷き和室風にするなど工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の出来る事、分かることに合わせ、個々に環境を工夫し、自立できるよう支援している。		